

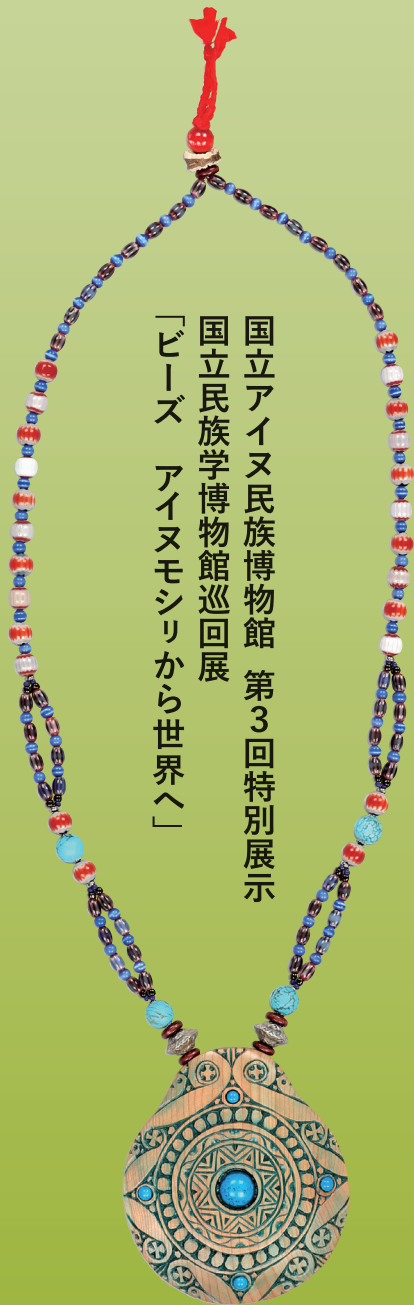


NATIONAL AINU MUSEUM

vol.006
2021 OCTOBER

アヌコ アイコマケルソコ 国立アイヌ民族博物館 ニュースレター アヌアヌ

ANUANU



国立アイヌ民族博物館 第3回特別展示
国立民族学博物館巡回展
「ビーズ アイヌモシリから世界へ」

首飾リ 伊藤夕美 作



エムシアップレスレット
郷右近富貴子 作

基本展示の注目ポイント⑥
「ウコアパカシ 私たちの交流」
見て見て！館内サイン⑥
探究展示 テンパテンパ④

教育普及活動報告
博物館PickUp!
ウポボイってこんなところ③



タマサイ(布製)
早坂ユカ 作



APENUY 下倉洋之 作

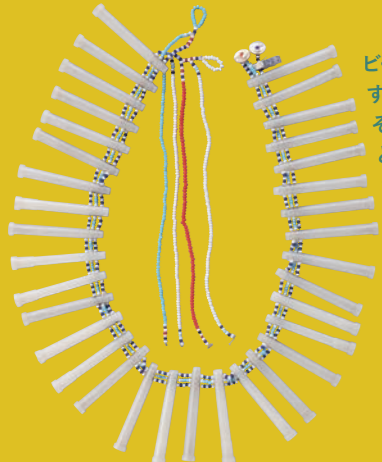


エムシアップリーズプレス 堀多栄子 作



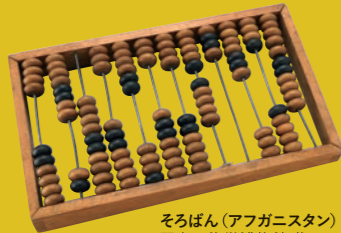
ヤオシケツカムイ
貝澤徹 作

貝殻や木の実や石やガラスなど、さまざまな素材からつくられるビーズ。本展覧会では、ものつなげたものを、ビーズと定義します。ビーズは、今から12万年前に誕生して現在にいたるまで、人びとの美への希求や人と人とのつながりを示すために利用されてきました。本展覧会では、国立民族学博物館(みんぱく)および国立アイヌ民族博物館所蔵の民族資料と北海道内の考古資料などを中心に、世界における多様なビーズの歴史とその役割について紹介します。同時に、アイヌモシリという地域文化に焦点を当てながら、地球上に普遍的にみられるビーズをとらえて、「人類とは何か」という課題を正面から追求するものです。「アイヌモシリ」とは、アイヌ語で「アイヌ(人間)がくらす世界」または「アイヌ民族がくらす土地」という意味です。本展覧会では後者の意味で、北海道を中心とした日本列島北部周辺地域を表しています。



育児用のお守り(南アフリカ)
国立民族学博物館 蔵

ビーズとは、「ものつなげたもの」とします。ものつなげるといふ行為が重要なのです。それでは、ソロバンや鯉のぼりや数珠をビーズと呼んでよいのでしょうか。身近なものの中から、ビーズを探してみませんか。



そろばん(アフガニスタン)
国立民族学博物館 蔵

●ビーズとは何か

アイヌモシリから世界へ

ビーズ

国立アイヌ民族博物館 第3回特別展示
国立民族学博物館巡回展

National Ainu Museum and
National Museum of Ethnology
Joint Special Traveling Exhibition

BEADS from aynu mosiri
to the world

会期 2021 10.2(土) - 12.5(日)
新型コロナウイルス感染拡大状況によっては会期を変更する場合があります。
詳しくはホームページをご覧ください。

会場 国立アイヌ民族博物館 特別展示室
ウボボイ入場料とは別に特別展入場料(300円)が必要です。



護符
(アメリカ合衆国)
国立民族学博物館 蔵



女性用上着(カナダ)
国立民族学博物館 蔵

●ビーズで世界一周

ビーズは、首飾り、頭飾り、足飾り、腰飾り、腕飾りとして、世界各地の人びとに利用されています。そこには、単なる身体を装飾するという目的のみならず、家族のつながり、社会のなかの地位、民族のアイデンティティを示すなど、さまざまな役割があります。さあ、アイヌモシリからスタートして世界中のビーズをみてみましょう。



首飾り
伊藤夕美 作



タマサイ(布製)
早坂ユカ 作



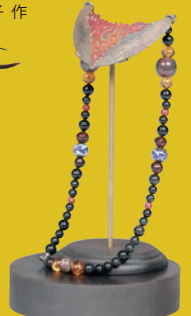
エムシアップレスレット
郷近富貴子 作



エムシアップビーズプレス
堀多栄子 作



ヤオクケブカムイ
貝澤徹 作



APENUY
下倉洋之 作

●グローバル時代のビーズ

現在、多くの場所で新しい素材、あるいは今までにない組み合わせのビーズをみることがあります。アイヌは、タマサイのような伝統的なものや日常に使えるアクセサリ、伝統を踏まえた芸術作品にもビーズを取り入れることがあります。他にも世界各地で、ペーパービーズ、ワイヤービーズ、ビーズ織りが生まれるなど、ビーズは発展し続けています。

これらの資料は、現在活躍中の作り手が、手に入る素材を使ってタマサイ(首飾り)やレクトゥンベ(首飾り帯)を現代風に表現したものや、親族から受け継いだエムシア(刀掛帯)の技法や文様を用いてビーズ等でプレスレットにアレンジしたものです。



ヨルバのビーズ人形
(ナイジェリア)
国立民族学博物館 蔵

●多様な素材

人類は、今まで、いったいどのくらいの種類の素材をつなげてビーズをつくりだしてきたのでしょうか。ガラス、真珠、石、貝殻、プラスチックだけではなく、木の実、虫の羽根、サルやジャガの歯、ダチョウの卵殻など実に多様です。人びとはこれらの素材をつなげ、新たな組み合わせのビーズをつくることで、独特な文化をつくりだしてきたのです。



植物
まじない用首飾り[イケマ]
(北海道)



貝
首飾り(台湾)
国立民族学博物館 蔵

※資料名に館名の記載がないものは当館収蔵品です。

●歩み

ビーズは、約12万年前に現生人類によって生みだされました。そして、北海道では、日本列島で最も古いビーズが出土しています。現在まで、北海道はビーズが継続的に利用されてきたビーズアイランドといえるでしょう。また、石や貝やガラスなどの素材は、古くから交易品として遠く離れた地域や人のあいだを結びつける役割を果たしてきました。



首飾り(アイヌ)
国立民族学博物館 蔵

奥尻町青苗遺跡出土の玉と丁字頭勾玉
(縄文文化)
奥尻町教育委員会 蔵

●つくる

ビーズは、さまざまな素材に「穴をあける作業」と、ものつなげを紐などで「つなげる作業」によって構成されています。素材によっては穴をあけるのが難しく、石やダチョウの卵殻のビーズをつくるには、穴をあけるための特別な道具が必要です。アイヌの場合、交易によって入手したガラス玉を植物製の紐などでつなげています。

ここに注目!
1階展示コーナー
第3回エントランスロビー展示
ビーズ作品の作り手や博物館を探そう

北海道内でビーズを使ったストラップ等を製作する作り手は各地にいます。そしてアイヌ文化の展示をしている博物館もたくさんあります。各地のビーズアクセサリやアイヌ文化を探してみませんか。(学芸主査 北嶋由紀)

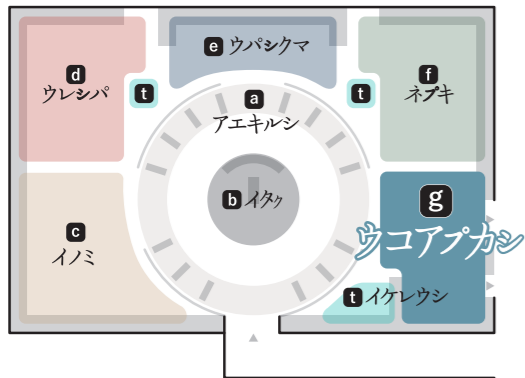


【主催】国立アイヌ民族博物館、国立民族学博物館、公益財団法人千里文化財団 【協力】国立科学博物館、北海道立北方民族博物館、北海道埋蔵文化財センター、大阪市立クラフトパーク、石狩市教育委員会、小樽市総合博物館、釧路市教育委員会、根室市教育委員会、北斗市教育委員会、浦幌町立博物館、奥尻町教育委員会、大老町教育委員会、知内町教育委員会、平取町教育委員会、余市町教育委員会、礼文町教育委員会、KOBETONぼ玉ミュージアム、タジマ工業株式会社、トーヨー株式会社

基本展示の注目ポイント⑥

ウコアプカシ 私たちの交流

常設の基本展示室は、私たちアイヌ民族の視点で、ことば、文化、歴史について紹介しています。数回にわたって、それぞれのテーマの見どころをお届けします。



【外から見たアイヌ文化】

ヨーロッパなど外から訪れた人びとは民具を収集して持ち帰り、見聞を地図や紀行等に記して広めました。18世紀以降、江戸幕府の命により北海道や樺太で調査や測量が行われ、最上徳内、近藤重蔵、間宮林蔵、松浦武四郎らによる記録が残されました。また、アイヌを題材とした絵画も数多く制作されるようになります。ここでは外からの視点で表象されたアイヌ文化を紹介します。



千島春里「アイヌ漁労図」

基本展示における「ウコアプカシ」の役割

アイヌ文化は、隣接する北東アジアの周辺諸民族との交流や、世界各地の先住民族との交流を通じて現代に継承されています。ここでは、アイヌの交流とその足跡をテーマに、生活の中に流入した交易品等から、和人や北方の民族との交流を紹介します。

(新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、映像プログラムの一部が休止となっている場合があります。)

【生活圏と海を越える交流】

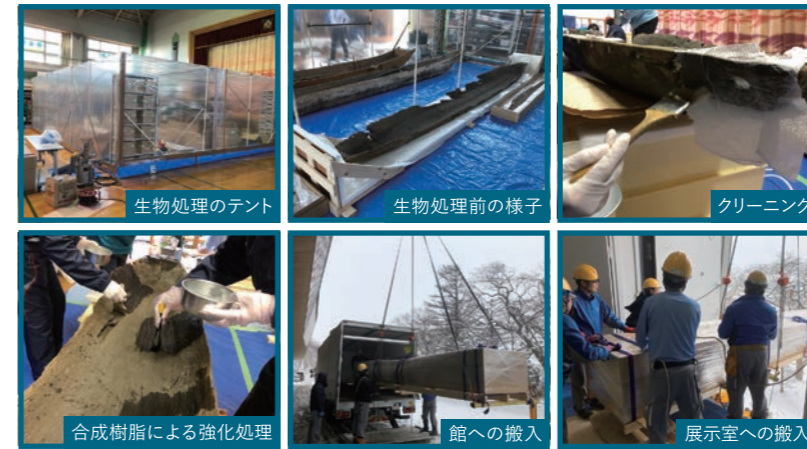
交易

アイヌは海を越えてさまざまな民族や国と交易するようになりました。アイヌからは鷲羽、動物の毛皮、樹皮衣、鮭、昆布などを提供し、金属製品、漆器、米、酒、木綿などと交換していました。交易品の中には蝦夷錦のように、大陸などを通してもたらされる一方で、和人との交易の品として提供することもありました。またラッコの毛皮のように、交易品の中でも特に価値が高いものは、松前藩に買い上げられました。



研究員のおすすめポイント

「生活圏と海を越える交流」の壁面の映像では19世紀の文献資料「蝦夷嶋図説」(函館市中央図書館蔵)からアイヌが山で舟に用いる木を選び、折りを擧げてから伐り出し、各部品を加工し、イタオマチブに組み立てるまでを紹介しています。こちらもあわせてご覧ください。
(資料情報室長 霜村紀子)



イタオマチブの保存修復

ヒトの交流～移動の手段

イタオマチブとはアイヌ民族が海や大きな河川で漁や交通、運搬の手段として使っていた舟です。1987年に厚岸湖岸で出土したイタオマチブ(厚岸町教育委員会蔵)は、ハリギリ(別名センノキ)を材料として作られており、放射性炭素年代測定法により17世紀後半以降のものであることが明らかになりました。脆弱な状態であった資料を安全に展示するため、クリーニングによる汚れの除去や合成樹脂による強化処理、損傷箇所の補填などの保存修復を施しています。しかし、保存修復後も安定した環境でなければ、変形やひび割れなどが発生し再び損傷してしまいます。展示室の温湿度制御や虫菌害の監視などを行い、資料にやさしい環境の中で公開しています。

【海外の先住民族との交流】

伝統を魅せる

同化政策が進められる中、自ら言語や文化を記録し、伝え残そうとする動きが各地に広がりました。白老、旭川、阿寒、平取などでは、アイヌ民族が自らの手で博物館を作り、展示などから地域の特色を伝える取り組みをしてきました。観光地ではアイヌ文化を紹介する仕事をすする人たちも出てきました。



各地では、舞踊、儀礼、言語などのアイヌ文化を継承するために保存会が結成されました。アイヌ古式舞踊は、1984年に国の重要無形民俗文化財に指定され、さらに2009年にはユネスコの無形文化遺産に登録されました。

世界各地の先住民族との交流

1982年国連による「先住民作業部会」の設置以降、海外先住民族との交流も積極的に行われています。各国の先住民族が置かれた状況は異なるものの、似た課題を抱え、何世代にもわたり、解決への努力を続けています。そこで得た経験を活かした次世代への継承が現在行われています。



見て見て! 館内サイン⑥

イテキ タンパクク 禁煙

イテキは「～するな、～しないように」という禁止を表します。千歳方言や沙流方言などで使われる単語です。タンパクは「たばこ」、クは「～を飲む」という意味です。日本語に「たばこをのむ」という表現がありますが、アイヌ語でもたばこを吸うことを表すときにクを用います。「たばこを吸わないように」という短い文ですが、イテキ タンパク ク ヤンのように文末にヤンをつけたほうが丁寧な表現になるため、ヤンをつけるかどうか検討しました。日本語の「禁煙」、英語の「No Smoking」も参考にしながら、ここではサインでの表現という特性を考え、短く簡潔な表現を用いることとし、ヤンをつけない形で表記しています。

イテキ タンパクク
禁煙
No Smoking
禁止吸烟
禁止吸菸
금연

(研究員 小林美紀)

イケレウシテンパテンパ

探究展示テンパテンパ

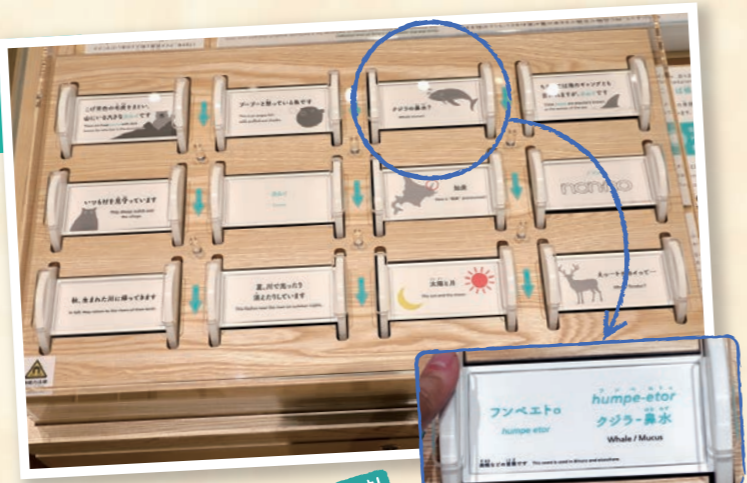
④

「テンパテンパ」はアイヌ語で「さわってねの
意味。体験を通してアイヌ文化にふれることが
できる。大人も子どもも楽しめるコーナーです。
それぞれの体験ユニットをエドゥケーター
が紹介します。

イタク カラカラセ ことば帳

言語をとおして文化を知ることができるとよく言われています。「ことば帳」のユニットは、アイヌ語を紹介しています。12個あるローラーを回せば、ことばに込められた意味や考え方をみることができ、ことばをとおしてアイヌの文化や世界観にふれることもできます。

このユニットを体験してアイヌ語についてもっと知りたいと思ったら、「私たちのことば」などの関連するテーマ展示もぜひ見に行ってください。



問題です！
アイヌ語で「クジラの鼻水」と呼ばれている動物は何でしょうか？
(答えはページなほど)



ウイマム 交易

「交易」のユニットでは、アイヌと他の民族が交易していた多様な品物を見つけることができます。輸出と輸入のどちらに当てはまるかを考え、正解だと品物のコマが土台にくっきます。それらの品物を確かめながら、アイヌと、大陸や本州などに住

んでいた周辺の民族との関係を知ることができます。交易品の中には輸出と輸入のどちらにも当てはまるものもあります。さまざまな品物のコマを手にとってみて調べてみましょう。(エドゥケーター カサド・パルド・ケラール)

(上)ニエウのクジラ鼻水、(中)クジラ鼻水、(下)クジラ鼻水、(右)クジラ鼻水、(左)クジラ鼻水

博物館 Pickup!

国立アイヌ民族博物館の
収蔵資料をピックアップして
紹介します。

【蝦夷方言藻汐草】

江戸時代に上原熊次郎という蝦夷通詞(アイヌ語通訳)のこと。「蝦夷通辞」とも書かれます)が編んだ日本語・アイヌ語辞典。約2700語が収録されるほか熟語や口承文芸等の記載もあり、当時のアイヌ語を知る資料としては一級品です。

寛政4(1792)年に成立し、文化元(1804)年に刊行されたこの辞典は、後世のアイヌ語の学習や研究に大きな影響を与えました。北海道各地の通詞や番人たちが、これを自分なりの表記法で写し、時には自分が勤務する地域の方言を加えるなどして「マイ単語帳」をつくっていました。

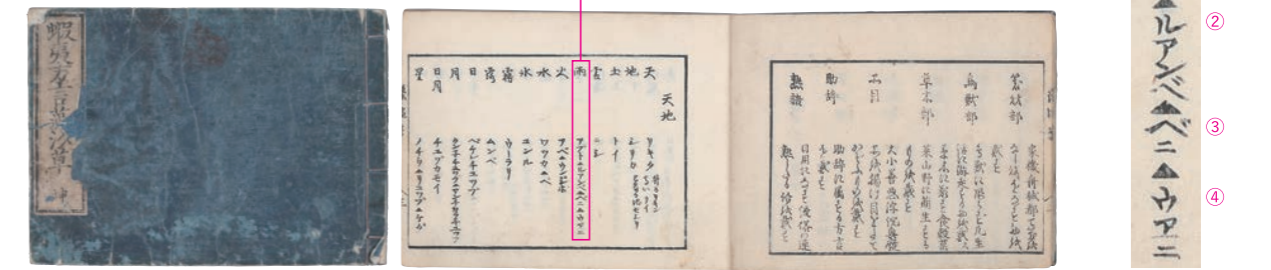
当初この辞典は一冊本の『もしほ草』として刊行されました。一冊本には甲本と乙本の二系統があり、後に甲本の流れをくむ二冊本の『蝦夷方言藻汐草』が刊行されたということが知られています。当館所蔵のものは二冊本で、一冊本に比べると残存数が多く手に入りやすいものです。

さて、この辞典に記載されているのは北海道のアイヌ語ですが、方言や用法に違いがある項目には、▲のマークで区切って複数のアイヌ語が列記されています。例えば「雨」の項目。現在よく使われている表記法に直すと、①「アプト」は「アフト」、②「ルアンベ」は「ルアンペ」、③「ベニ」と④「ウエニ」

は恐らくどちらも「ウェニ」を記したものではないかと考えられます。このほかにも北海道には「ルヤンペ」、樺太には「アフト」や「アット」、千島には「シリウィン」という語彙があることがわかっています。

ちなみに、「雨が降る」とアイヌ語で言う場合には、このような「雨」という名詞と「降る」に相当する動詞で基本的には表現されますが、動詞もまた「アシ」(立つ)、「ルイ」(激しい)、「ラン」(下る)など方言によってさまざまです。例えば、白老町のあたりでは「アフト アシ」と言いますが、それより南西には「ウェニ アシ」、北東には「ルヤンペ アシ」と言う地域もあります。地域間で「雨」を表す名詞が異なっていたとしても、「降る」という動詞は同じ「アシ」を使うということもあるわけです。

一方、「雲」を表す項目のようにあまり方言差が見られないような場合には、ひとつの語彙しか記載されないこともあります。このように『蝦夷方言藻汐草』は、当時のアイヌ語の語彙や表現、そして方言差を考えるうえでも重要な資料となっています。(研究員 深澤美香)



『蝦夷方言藻汐草』の「雨」の項目

教育普及活動報告

イベント名	実施日 (2021年7月~9月)
史料から災害を記憶する - 感染症	2021. 7.10
講演会:『ゴールデンカムイ』のアイヌ語監修者・中川先生のお話を聞こう	2021. 7.23
研究員・学芸員による特別展示の解説:「日露戦争と、北海道と樺太」	2021. 7.31
教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館	2021. 8.2
講演会:小樽市総合博物館の石川館長のお話を聞こう 「いかにして小樽は舞台となったのか?」	2021. 8.7
研究員・学芸員による特別展示の解説: 「子守唄から知る、生活の中のうたおどり」	2021. 8.14
令和3年度「こども霞が関見学デー」オンラインプログラム	2021. 8.18・19
講演会「未開の知」に触れる - ユニバーサル・ミュージアムとは何か	2021. 8.21
ゲストトーク:『ゴールデンカムイ』の編集者・大熊さんのお話を聞こう	2021. 8.22
ユニバーサルミュージアム&パーク「音楽を体験してみよう!」	2021. 8.28

※9月は、北海道の緊急事態宣言に伴う臨時休業のため、イベントを実施しませんでした。



ミニタマサイ

ホリデーイベント「自分だけのミニタマサイを作ろう!」を2021年5月1日(土)に開催しました。イベントでは、アイヌの女性のイコロ(宝物)である首飾り「タマサイ」とはどのようなものなのか、その素材や交易の歴史などを話し、そのミニチュア作りを行いました。参加者の皆さんは、このイベントをとおして、受け継がれるイコロの歴史的背景に思いを巡らせることができたのではないのでしょうか。
(エドゥケーター 両角佑子)

ユニバーサルミュージアム&パーク 「音楽を体験してみよう!」を開催しました [2021.8.28(土)]



博物館の資料をみるだけでなく、さわったり、聞いてみたりしてアイヌ文化を体験する展示会、第1回交流室展示「ケレ ヤン、ヌカラ ヤン、ヌヤン さわる、みる、きく 国立アイヌ民族博物館」の関連イベントとして開催しました。さまざまな感覚を動かして体験するため、今回は博物館から飛び出して伝統的コタンのボン チセを会場としました。イベントでは、ムックリ(口琴)やトンコリ(弦楽器)というアイヌの楽器に、さわる、みる、きくなどの感覚で「モノ」にふれてみる内容で行いました。ムックリの製作過程のそれぞれの「音」や、色々な民族の口琴の「音」の違いを聞き比べたり、トンコリの弦となる植物の繊維などをさわったり、さらに職員の演奏や歌にあわせて参加者のみなさんと一緒にリズムを取るなど、楽しむ様子が多くありました。音楽の体験のほかに、セタエント(ナギナタコウジュ)という植物でいれた冷茶の味わいやにおいにもふれるなど、五感をつかった体験となりました。今後もウポボイの主要施設である国立アイヌ民族博物館と国立民族共生公園で連携した体験イベント「ユニバーサルミュージアム&パーク」を開催していきますので、どうぞご期待ください。
(学芸員 押野朱美)



ウポポイへの入場は 事前予約制です。



STEP 1 博物館への事前予約

博物館に入館する場合は、必ず事前予約をお願いいたします。
当日、予約なしで博物館への入館はできませんのでご注意ください。

国立アイヌ民族博物館では、館内にいる人数を常時200人程度に保つため、1時間刻みの予約制としています。オンライン予約で「博物館 入館整理券」を発行してください。

オンライン予約の状況をご確認後に、ウポポイ入場券の購入をお勧めしています。

博物館への予約はこちら



<https://www.e-tix.jp/nam/>



STEP 2 入場券の事前購入

入場券	料金(税込)	入場日の予約
1日券	大人 1,200円 高校生 600円	オンライン購入時に日付を指定
年間パスポート	大人 2,000円 高校生 1,000円	入場日予約券(無料)を発行。オンライン予約で日付を指定
入場無料	中学生以下 障がいのある方、その介助者(1名)	

1日券購入はこちら



年間パスポート購入はこちら



◎休館日

月曜日および年末年始(12月29日～1月3日)
※祝日または休日の場合は翌日以降の平日

特別展示観覧料

特別展示観覧券は、博物館館内でお買い求めください。(当日券のみ)

- 大人 300円(240円)
- 高校生 200円(160円)
- 中学生以下無料

※()は20名以上の団体料金
※国立アイヌ民族博物館の基本展示室の観覧料は、民族共生象徴空間(ウポポイ)の入場料金に含まれます。

ウポポイ こんな とこ3

『ヤイハノッカラ チセ 体験学習館』

体験学習館はアイヌ料理の調理や試食、伝統楽器の演奏や鑑賞など、アイヌ文化を楽しみながら学ぶことができ、小さなお子様からご家族そろってお楽しみいただける施設となっております。

調理体験「ポロキッチン」(要事前予約)と「ポントキッチン」(軽食、当日受け付け)では、季節ごとの食材やアイヌ料理の調理法の解説とともに、実際に料理を作って味わい、くらしの知恵を学ぶプログラム。また、楽器演奏体験では伝統楽器のムックリ(口琴)やトンコリ(弦楽器)の持ち方や音の出し方など、音色に触れながら演奏を体験できます。

別館のドーム型スクリーン映像体験「カムイ アイズ」では、アイヌ文化でカムイとされている動物たちの視点から見える世界を、半球ドームスクリーンにて上下左右の広角映像で体感いただけます。

※各プログラムのタイムテーブルはウェブページでご確認ください。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部内容を変更して実施している場合があります。



調理体験「ポロキッチン」



「はじめてのトンコリ」



ドーム型スクリーン映像体験「カムイ アイズ」

ウポポイから入場に関するお知らせ

ご来場に当たっては、マスクの着用、手指の消毒、ソーシャルディスタンス確保等の感染拡大防止対策へのご理解とご協力をお願いいたします。

- ウポポイへの入場および国立アイヌ民族博物館の入館は予約制を導入しています。
- プログラムのスケジュールや内容等を一部変更、中止している場合があります。詳細につきましては、ウェブサイト等をご覧ください。

国立アイヌ民族博物館からのお知らせ

「探究展示 テンパテンパ」キッズデザイン賞 優秀賞 経済産業大臣賞受賞!

基本展示室「探究展示 テンパテンパ」が、子どもの安全・安心と健やかな成長発達に役立つ優れた空間や研究活動などを顕彰する「第15回キッズデザイン賞」の優秀賞 経済産業大臣賞[子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門 リテラシー部門]を受賞しました。「触って感じる探究展示と、実物中心のテーマ展示との相互の行き来により、来館者それぞれの興味関心に沿った深掘りが可能な知的好奇心を喚起する仕掛け」を評価いただきました。大人も子どもも楽しめる展示コーナーとなっております。ご来館の際にはぜひお立ち寄りください。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部体験に制限があります。



<https://nam.go.jp/>

※アヌアヌは、アイヌ語で「もしもし」の意味です

■お問い合わせ

公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)
住所:〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号
電話:0144-82-3914 FAX:0144-82-3685
メール:info@ainu-upopoy.jp

ウポポイに関する詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 検索

<https://ainu-upopoy.jp/>

